

# 竹之高地だより

平成28年  
2月号  
2016年2月1日

竹之高地町同友会  
代表 原 義一  
〒940-1123  
長岡市竹之高地町  
不動社社務所内

## お不動様

2016年1月1日朝 不動様 初詣

竹之高地に到着すると空は晴れ渡り、初日の出を拝むことができました。なぜかかなりの確率で元旦にはおひさまを拝むことが出来ていません（ほんの一時ですが）。今年も、おひさまは1時間ぐらいで雲に隠れてしまい、昼過ぎには雪がチラチラと舞ってきました。

不動様の周りは一昨年トンネルより引いた融雪の水により積雪は少なく、屋根からの落雪ををよく融かしています。竹之高地での元旦の積雪は60cmくらいでした（昨年は180cmくらいありました）。

暖冬で正月に積もった雪も融けてしまいましたが、竹之高地は豪雪地域です。15日には60cm、25日には170cmを越える積雪となりました。



**決算総会・報告会 開催のお知らせ**  
3月27日(日) 午前10時から

皆様には平素より竹之高地町同友会の活動に際し、ご協力頂き有難うございます。さて、竹之高地町同友会では、今年度の活動報告並びに決算報告会を開催いたします。場所は社務所2回です。お誘いあわせのうえご出席くださるようお願い申し上げます。尚、役員は9時集合です。

**そば打ち体験会 開催のお知らせ**  
竹之高地で採れた風味豊かなそば粉を使って『そば打ち体験会』を行います。どなたでも参加できます。下記の要領にて申し込みをお願いします。

日時：2016年3月6日（日）AM10：00～

場所：不動社社務所

会費：一人500円（当日徴収）

申込：役員、社務所・佐藤まで、2月28日〆切

**不動様の冬の伝統行事 「百八灯」** 2月20日(土) 午後6時から

竹之高地不動社大祭

春の大祭 2月28日(日)

前夜祭(百八灯) 2月20日(土)



昨年の百八灯です。『百八灯』の文字がくっきりと浮かび上がりました

百八灯は、2月20日午後より準備し夕方6時から神事行列が始まります。2007年より現在の形式のにしてから第10回目の記念すべき行事です。昨年で中越大震災からも11年ということで感慨深いものがあります。

今年の「ながおかおた雪あかり」蓬平町は集落センターを中心としたエリア（沿道は大鳥居より高龍神社までの間）に雪あかりがともされます。こちらの点灯開始は夕方5時から行われますので、こちらのイベントに参加されてから竹之高地不動社の「百八灯」へ参加することが可能です。この機会に蓬平町の幻想的なイベントと竹之高地の伝統行事の両方に参加されてみてはいかがでしょうか。

また準備として2/20 午後1：00～道路脇にロウソクを灯す穴あけ、テント設営等の作業を行います。

こちらにも参加されてはいかがでしょうか。

皆様のお越しをお待ちしております。



## お不動様・不動明王とは

インターネット知恵袋より (yrnurghama0717さんのこたえ)

『お不動さんの愛称で呼ばれる不動明王は本当のお名前はアチャラナータといい、アチャラとは動かない、ナータとは守護を意味し「不動の守護者」と約されます。

不動明王は忿怒像で怒りのお姿ですが、これは力をふるい起し悪魔を震いあがらせ私達を悪魔から守護して下さることを表しています。又、右手に持つ剣は降魔や人々の煩惱を断ち、左手に持つ縄は煩惱を縛り煩惱から抜け出せない人々を救い出すため、後背の火炎は世間の闇を照らし迷いや災難を焼きつくすことを表しています。

大きな石に安座するのは私達に働きかける悪霊の重い障りを大きな石で押さえつけ動けないように清めて下さることを表しています。このように、不動明王は悪と戦い強い慈悲を持ち私達の幸せを守って下さる仏様であります。因みに明王とは明すなわち真言を唱えれば、ご利益が王様のようにあるということです。

弘法大師様は「この尊は大日の化なり」とされ、大日如来の化身で私達を直接救って下さる仏とされおられます。真言は「のうまくさん まんだ ばざらだん せんだまかろしゃだ そわたや うんたらたかまん」で、「仏の命に帰依します。煩惱と悪魔を退治して、災難を除くため怒りのお姿で世間を救う明王よ、人々の苦悩を救いたまえ。」の意味です。特に「そわたや」は悪魔を退治することを表しています。酉年生まれの本尊で縁日は28日です。』

## お不動様 異聞

お不動様は無格社で、加具都知の命を祀る神社である。神体は弘法大師が自ら作った。尊像で、創立は1100年余り以前に、弘法大師が建立した神社と言い伝えられている。

『竹之高地にはいわゆるお宮と言うものがない。神仏混合の不動明王をまつるお不動様がある。不動神社と言うことになっているが、これは、神仏分離と神道が国教として立つた時につけたものであろう。この寺の縁起は、この村は浄土真宗一宗で、神さまを、おまつりしないていたが、お宮もほしいと越後一の宮お弥彦様に、うかがいを立てると、不動様であれば仏様だから何にかにつけてよいであろうと言うことになったと言う。そうして無格社の不動神社、祭神は『加具都知の命』（火の神様）と言う表向きのお宮になった。

併し、その不動様の縁起は又別にあり。

その昔、大師仏道修行に諸国を遍歴の折、この地にも足跡を残している。大師は竹之高地に入り、一部に老樹うつそうとして、木の枝が交り行く手ははっきりしないが、よく見ると河水が見えた。大師この川に出て見ると断崖絶壁でそこに三十余間の滝がかかっていた。附近一体は黒色の硬い石が凸凹と並んでいるので、珍らしい景色である。大師これを見てまれに見る仙境であるこれは不動様の心にかなっている所であると不動さまの像をきざんで岩上に安置し奉り祈願をしたと言う。これが竹之高地お不動様の由来だと言う。境内前に千古の老杉があるがこれを弘法大師お手植の杉と言っている。』

『高志路』昭和43年3月20日発行より引用

